北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	後房型有水晶体眼内レンズを垂直固定した症例の臨床成績の検討 (B21-196)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医療衛生学部視覚生理学・教授/病院眼科併任医師 神谷和孝
他の研究機関および 各施設の研究責任 者	
本研究の概要・背 景・目的	<p>後房型有水晶体眼内レンズ(implantable collamer lens: Visian ICL™ STAAR Surgical 社、以下、ICL)挿入術は安全性や有効性が高く、国内では130施設以上に導入され、近年では屈折矯正手術全体の約4割(年間1万眼以上)にまで増加しております。ICLは視機能の安全性や有効性が高い言われていますが、そのためには適切なサイズを選択しICL後面と水晶体前面の距離(vault)を保つ必要があります。なぜなら、vaultが低いとレンズと水晶体が接触し白内障になる可能性があり、vaultが高いと隅角が狭くなり眼圧上昇を引き起こす可能性があるからです。しかし、現在ICLのサイズは4サイズしかなく、症例によっては適切なサイズ選択が困難な場合もあります。</p> <p>現在国内で承認されている貫通孔つき有水晶体眼内レンズ(以下、Hole ICL)はレンズ自体に0.36mmの貫通孔があり従来型のICLのように虹彩切除不要のため任意の位置にレンズが固定することが可能になりました。そこで今回水平固定で適切なvaultが困難な症例に対し垂直固定した症例の術前、術後1週、1、3、6か月、1年の時点における臨床成績について過去の診療録をもとに後方視的に検討します。</p>
調査データ 該当期間	2018年4月1日から2021年9月30日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	2018年4月1日から2020年9月30日にHole ICL挿入術を施行し、レンズを垂直固定した方
研究の方法 (使用する試料等)	<p>利用する情報</p> <p>2018年4月1日から2021年9月30日までの電子カルテに記載のある診療記録、眼科学的検査(裸眼視力・矯正視力・vault*・屈折度数・眼圧・角膜内皮細胞密度・コントラスト感度)データを利用します。</p>
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：病院眼科・一般 担当者：安藤和歌子(アンドウワカコ) 電話：042-778-8111</p>
備考	